

R. I. District 2610. ROTARY CLUB OF UOZU

## 魚津ロータリークラブ会報誌

2013-2014年度 RI会長 ロン D. パートン

2013-2014年度 魚津RC会長 若井 貞克



第2907回 例会報告

2014年2月14日



・点鐘 ・握手

・ロータリーソング 「我等の生業」



### ゲスト並びにビジターの紹介

魚津埋没林博物館学芸員 打越山詩子 様

魚津西RC会員 横谷正晴君

2月12日、父（正良）の葬儀に対するお礼を述べられた。



### 開会挨拶 若井会長

皆様、こんにちは。今日は2907回例会です。

2月14日、坪井夫人誕生日おめでとうございます。

今日のお客様、魚津埋没林博物館学芸員打越山詩子さん、ようこそお越し下さいました。

会長の不徳の致すところ脱会者が出てしまいました。メンバーの皆様には深くお詫びいたします。詳細については坪野会員委員長より発表させていただきます。

さて、釜山釜一への訪問については色々検討しています。素案が出来しだい皆様方に提案いたしますので沢山の参加をお願いいたします。

### ニコボックスの報告 寺田委員長

★若井会長・・・脱会者を出してしまい深くお詫びします。★野澤さん・・・2月9日魚津市文化協会の役員選考会にて次期会長に選ばれました。40団体 850名の会員の文化協会です。これから役員を選ぶのに忙しくなります。★清水さん・・・前回の例会・



理事会の欠席をお詫び申し上げます。お陰様で世界遺産の御積迦様の生誕地を始め多くの仏跡を参拝させていただきました。ありがとうございます。★青山さん・・・2月19で開院、丸12年となります。昨年末には消化器内視鏡を更新しました。時代に遅れないように頑張ります。★魚津西RC会員 横谷正晴さん・・・父（正良）の葬儀お礼。

### 幹事報告 愛宕幹事

#### ★ガバナー事務所

2014～15年度ロータリー財団地区補助金申請に向けて

#### ★裏千家淡交会魚津支部・・・初点式参加お礼

#### ★2月例会案内

21日（金）卓話・・・根岸さん（サンルート）

宇奈月RC高木さんが来場されIMの開催案内予定

28日（金）卓話・・・谷口さん（サンルート）

#### ★2月SAA補助・・・生駒さん、平崎さん、池上さん

### 出席報告 羽田副委員長

★本日の出席者 28名

欠席者 8名

出席率 77.77%

★第2904回

メイクアップ なし

★第2905回 なし

修正出席率 75.67%

⇒ 75.67%



### 委員会報告★会員委員会・・・坪野委員長

2名（小浜、吉森）の退会申請に基づき、先日の理事会で承認されました。委員会として会員増強に努めていきたいので皆様方の紹介をお願いします。

★平崎会長エレクト・・・来月中に、新年度の理事の方々を決めていただき準備を進めていきたい。

### 誕生祝 2月14日 坪井夫人

妻は体が丈夫な方ですけど、昨年、「乳がん」が見つかりました。幸い経過が良く、元気に仕事をしています。ただ、手術する前は心配だったので、占い師に手相を見てもらったら、貴女は長生きするので旦那さんの言う事を聞いてあげなさいと言われたそうです。私はそれを聞いて言うまでもありません。二人は、「癌」のおかげで健康に気を付けるようになり「癌」に感謝しています。





## 「魚津の神秘 魚津埋没林」

### <プロフィール>

打越山 詩子（うちこしやま うたこ）

福岡県生まれ、熊本県育ち

熊本大学自然科学研究科環境共生科学専攻卒業

在学中は地質学、古環境学を研究

平成23年4月より魚津埋没林博物館で学芸員として勤務

魚津埋没林とは、魚津港一帯の土の中から約2000年前に出土したスギの原生林です。魚津埋没林が確認された魚津港北側の土地（現在は埋没林博物館敷地内）が国の特別天然記念物に指定されています。また、蜃気楼やホタルイカ共に「魚津の三大奇観」とされています。

### 魚津埋没林のあゆみ

最初に魚津埋没林の歴史を簡単に振り返ってみましょう。

昭和5年（1930年）：魚津港修築工事の砂浜掘削により、地表から0.6~1m程度掘り下げた地層から200株以上の樹根が出土し、魚津埋没林が発見される。

昭和5~9年：魚津港周辺で埋没林の調査が行われる。このころ、埋没林の成立は10000~5000年前の地盤沈下によるものと考えられる。

昭和8年（1931年）：富山県が、魚津港工事現場北側の砂浜を天然記念物に指定。

昭和11年（1936年）：文部省（国）が魚津埋没林を天然記念物に指定。

昭和27年（1952年）：埋没林保存展示施設建設のため、発掘調査を実施。樹根と共に発見された縄文土器から、埋没林の形成年代が約2500年前と改められる。

昭和30年（1955年）：文化財保護委員会により、特別天然記念物の指定。

昭和40年（1965年）：富山大学の藤井昭二教授が、放射性炭層同位体による年代測定から、埋没林の成立を約2000~1700年前とし、地盤沈下説の代わりに海面上昇説を唱える。

昭和58年（1983年）：特別天然記念物指定地を横断する県道バイパス案が浮上

昭和60年（1985年）：指定地内県道計画部分の調査で埋没林の存在が確認され、発掘調査の上で保存施設の建設が決まる

平成元年（1989年）：県道建設予定地で発掘調査を開始。多角的な分析調査（年代測定、花粉、昆虫など）が行われ、魚津埋没林の姿が以前よりも明らかにされる。

魚津埋没林ではこれまで、2回の発掘調査を含む研究が行われています。また、調査データの蓄積に加え調査手法や技術の発展と共に、埋没林の形成年代や成因が変遷しています。



## 魚津埋没林の謎

### ・魚津埋没林はどうやってできた？

魚津埋没林が出土した周辺の地層を調べると、埋没林が発見された層準とその上下では、違う種類の地層が見られます。埋没林が埋まっていた周囲の地層は、泥層または泥炭層と呼ばれる土でできています。泥炭層と呼ばれる地層は、沼地や湿地で植物の遺骸が堆積してできる地層です。この泥層や泥炭層からは、植物の種子や実、昆虫などが発見されていることから、2000年前の原生林でできた地層と考えられています。一方、埋没林の上下の地層は、砂層や砂礫層からなります。これらの地層の大部分は、片貝川が上流より運んできた砂や礫が堆積した片貝川扇状地堆積物と考えられています。

以上のことから、海岸沿いの片貝川扇状地上に一時期存在していた原生林が、片貝川の氾濫などで運ばれてきた土砂に埋められてしまったことが、魚津埋没林の直接の成因と考えられています。

### ・なぜ土の中に2000年間保存された？

魚津埋没林が発見された魚津港周辺は、片貝川扇状地の末端部分になります。扇状地の末端部分は地下水が豊富なことが多く、魚津埋没林周辺も1~2m程度掘れば水が出るような地下水が豊富な場所です。通常土の中に埋まった木材は、菌などの働きにより分解されてしまいます。ただ、魚津埋没林の場合は、周囲を地下水で満たされた状態になったことで、菌などが活動できない密閉された状態ができあがり、2000年間朽ちることなく保存されたと考えられています。

### ・魚津埋没林はどのような原生林だった？

2000年前にはどのような原生林が魚津の海岸に存在していたのか、これまで行われてきた調査で明らかになってきました。魚津埋没林で発見された樹木の分析では、出土した樹木のほとんどがスギだったことがわかっています。現在埋没林博物館で見ることができる樹根などもすべてスギです。巨木が多く発見されているのも魚津埋没林の特徴です。さらに埋没林周辺の泥炭層などから発見された果実や種子を調べた結果、スギ以外に、ハンノキ、ツバキ、ノブドウ、ミツガシワなど多種の植物の種子などが発見されたことから、スギに広葉樹や草本が混合する原生林の姿が想像されます。また、花粉分析や昆虫化石を調べた結果、水辺を好む植物と水生昆虫や湿地を好む昆虫が生育するような水域が原生林の中もしくはすぐ近くにある環境だったことがわかりました。以上のことから、魚津埋没林は、現在黒部川扇状地末端部の湧水地帯にある杉沢の沢スギ林に近い環境の原生林だったと考えられています。



## 魚津埋没林が伝えているもの

魚津埋没林は2000年前に魚津の海岸付近にあった原生林跡です。現在発見されている樹根の中には、推定樹齢500年はある巨木もみつかっています。しかしこのような原生林も環境の変化に耐えられず、土の中に埋没してしまいました。この埋没林を調べていくと、過去には様々な環境変化があったことを教えてくれます。同時に、現在の環境も永遠に続くものではないことを伝えています。日々変化していく自然や環境とどのようにつきあっていくか、埋没林が教えてくれる2000年前の環境からヒントが得られるかもしれません。